

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立高美が丘中学校	校長氏名	脇坂 治海	生徒指導主事氏名	佐藤 豊
-----	--------------	------	-------	----------	------

取組事例名 『生徒会の企画によるロッカー・机・椅子チェック』

取組のねらい『キーワード 自主的・自発的・自治的な活動・集団活動』

- ・生活三訓（挨拶・時間厳守・整理整頓）の整理整頓について、生徒会が企画立案し、生徒に提案し取り組むことで生徒一人一人が自主的・自発的に集団生活や生活環境の向上にむけて具体的な行動をすることができるようにする。

取組の具体的内容『キーワード 生徒会主体・ロッカー・机・椅子チェック』

- ・生徒会執行部が公約に基づいて企画立案する。
- ・生徒三訓の整理整頓に注目し、放課後のロッカー・机・椅子の整理整頓に取組をしぼって実施する。
- ・『美（be）・高美「物を探す時間」を「物を使う時間」に』をキャッチフレーズに決定し実施する。
- ・毎週火曜日と金曜日の放課後に、生徒会が各教室をまわってチェックを実施する。
- ・各クラスの意欲が高まるよう、チェックの結果は、生徒玄関に掲示するとともに生徒朝会で報告する。
- ・実施の前には、生徒朝会において生徒会長より取組の目的や概要、実施方法、具体的な整理整頓の方法について説明する。
- ・常に確認できるよう、整理整頓の方法について写真入で各クラスに掲示する。



美（be）・高美 「物を探す時間」を「物を使う時間」に

学校に置いて帰ってよいもの（1年）

国語	教科書、ノート、学習漢字、 二百字帳 以外すべて。
社会	ワークブック、資料集。
数学	ファイル、レスキューファイル。
理科	ファイル、資料集。
音楽	教科書、器楽の教科書、ファイル、合唱曲 集、リコーダー（実技テストのときは持って 帰って練習します）。
保健体育	図解体育、ファイル、帽子、 保健教科書、保健ワーク。
技術家庭	教科書、ノート、ファイル。
美術	教科書、資料集、ファイル。
英語	辞書。



『ロッカー』
①扉を開き整理整頓。
②「学校において帰って
よいもの」以外は持ち帰る。
『後援教室や放課後の教室』
①椅子は机に入れ、縦横を
そろえる。
②机の上に教科書などを
出しっぱなしにしない。



取組の課題・創意工夫『キーワード 徹底・継続・評価』

【課題】

- ・3年生が生徒会活動から引退後の取組となった為、3年生は他の学年に比べて取組に対する意識を高めることができていない。結果として、特に3年生では徹底できていない。
- ・生徒会としてはじめての取組であるが、今後、どのように取組を継続していくのか、またどのようにして生徒の整理整頓に対する意識を継続させ定着させるのかについて検討が必要である。
- ・生徒会活動と各教科等とを関連づけて実施することはできていない。

【創意工夫】

- ・各クラスの評価としてチェックの結果が分かるように生徒玄関に掲示。また生徒朝会においても報告する。
- ・個別の指導に関しては、チェックの結果を各担任等に報告し、整理整頓ができにくい生徒に対して教職員も支援する。

月日	学年	机	椅子	ロッカー	机	椅子	ロッカー	机	椅子	ロッカー	机	椅子	ロッカー
1-1	1-1	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
1-2	1-2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
2-1	2-1	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
2-2	2-2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
3-1	3-1	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
3-2	3-2	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X

取組の成果（効果）『キーワード 主体的』

- ・生徒会が企画した生徒主体の取組となっていることで、生徒自身の意識が高まり、お互いに声をかけ注意しあうなどの変化が見られた。
- ・取組の様子を学年通信や PTA 総務委員会などを通して情報発信することで、家庭の理解や協力を得ることもできた。

今 後 の 展 開『キーワード 発展・自治的な活動・集団活動』

- ・生徒会執行部はもとより、生徒自身が学校生活を通して課題を見つけ、改善していくことができるよう生徒会活動を中心とした生徒が主体となった自治的な活動や学校行事などの集団活動を発展させ充実させていく。また、そういった活動を通して、生徒一人一人に、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てていく。

他校へのアドバイス『キーワード 生徒会活動の充実』

- ・教職員の指導による取組だと、“やらされている感”の強くなりがちな取組も、生徒会が中心となって主体的に取り組むことでより多くの生徒の取組に対する意識を高めることができた。